TX-1

使用説明書

本機をお買い上げいただきありがとうございました。
本機を正しくお使いいただくために、この使用説明書をお手元へお届けいたします。
内容をよくご理解の上、お使いください。

安全にお使いいただくために

- この製品および付属品は、写真撮影以外の目的に使用しないでください。
- 製品の安全性には十分配慮しておりますが、下記の内容をよくお読みの上、正しくご使用ください。
- この説明書はお読みになった後で、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠ 警告	⚠ 注意
この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警告

絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。

落下などにより内部が露出したときは、絶対に触れないでください。高圧回路があり感電する恐れがあります。

カメラ(電池)が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、ただちに電池を取り出してください。発火ややけどの恐れがあります(電池を取り出す際、やけどには十分ご注意ください)。

カメラを水中に落としたり、内部に水または金属や異物などが入ったときは、ただちに電池を取り出してください。発熱・発火の恐れがあります。

引火性の高いガスが充満している場所や、ガソリン、ベンジン、シンナーなどの近くでカメラを使用しないでください。爆発や発火・やけどの恐れがあります。

カメラは乳幼児の手の届かないところにおいてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息する恐れがあります。

⚠ 警告

電池の分解、加熱、火中への投入、充電、ショートは絶対にしないでください。爆発の恐れがあります。

指定以外の電池を使わないでください。発熱・発火の恐れがあります。

新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。また、電池の⊕⊖を誤って装てんしないようにご注意ください。電池の破裂、液もれにより、発火、けがや周囲を汚損する恐れがあります。

電池は乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤って飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

⚠ 注意

カメラをぬらしたり、ぬれた手で触ったりしないでください。感電の原因となることがあります。

自転車や自動車・列車などを運転している人に向けて、ストロボ発光撮影をしないでください。交通事故などの原因となることがあります。

目　次

各部の名称 …… 4
各部の主な機能の説明 …… 8
特長 …… 9

撮影準備

フィルムの現像 …… 10
ストラップを取り付けます …… 10
レンズ収納ケースからレンズを取り出します …… 11
レンズの取り付け/取り外し …… 12
レンズキャップの着脱 …… 14
レンズフードの取り付け …… 15
ファインダーアイピースの着脱 …… 15
電池を入れます …… 16
電源のON/OFF（撮影モードの選択） …… 17
フィルムを入れます …… 19
フィルム感度の設定 …… 21

撮影操作

カメラの構え方 …… 22
撮影画面サイズ（標準/フルパノラマ）の切り替え …… 23
ファインダー内表示 …… 24
絞り優先AE …… 26
マニュアル露出 …… 29
ピント合わせと、撮影 …… 31
セルフタイマー撮影 …… 33
フィルムを取り出します …… 34
ストロボ撮影 …… 36
液晶表示部バックライト …… 38

応用テクニック

露出補正 …… 39
AEB撮影 …… 40
ケーブルレリーズ …… 42
バルブ撮影 …… 43
被写界深度の利用 …… 44
赤外撮影表示 …… 46
トータルショット数表示 …… 46
取扱上のご注意 …… 48
アフターサービスについて …… 50
主な仕様 …… 52

各部の名称

採光窓
距離計窓
ファインダー
シャッターボタン
セルフタイマー
ランプ
DXロック
解除ボタン
距離調節リング
ISO感度設定
ダイヤル
グリップ
シンクロソケット
レンズロック
解除ボタン
絞りリング
撮影レンズ

標準／フルパノラマ切り替え
ロック解除ボタン
標準／フルパノラマ
切り替えつまみ
メイン液晶表示部
ファインダー
アイピース
フィルム途中
巻き戻しボタン
裏ぶた
AEB
レリーズ
ソケット
液晶ライトボタン
フィルム在否確認窓
AEB ボタン
裏ぶた開放つまみ
三脚ねじ穴
電池ぶた

各部の名称

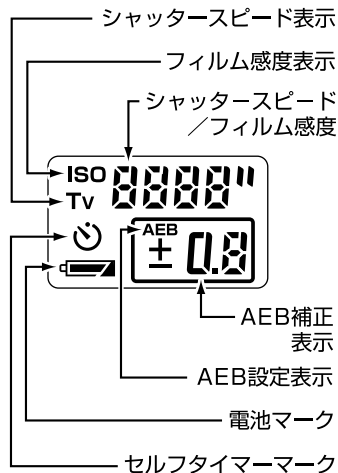
ストラップ取り付け部
ホットシュー
シャッタースピードダイヤル
ストラップ
取り付け部
露出補正ダイヤル
モード切り替えレバー
フィルム位置マーク
Aモードロック解除ボタン
〈フィルムカウンター〉
（すべての表示が現れている状態）
フルパノラマ
設定マーク
撮影可能
残数表示

シャッター幕

画面枠

フィルム先端マーク

〈メイン液晶表示部〉

（すべての表示が現れている状態）

各部の主な機能の説明

- **モード切り替えレバー**
  電源のON、OFFおよびドライブモードの切り替えに使います
  ⑴ OFF ：電源オフ…電源が切れます。
  ⑵ S ：シングルモード…シャッターボタンを押すごとに1コマ撮影します。
  ⑶ C ：コンティニアスモード…シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。
  ⑷ (セルフタイマーマーク) ：セルフタイマーモード…セルフタイマーで撮影するときに使います。
- **シャッタースピードダイヤル**
  絞り優先AE“A”モードの設定およびマニュアルシャッタースピードの設定に使います。
- **Aモードロック解除ボタン**
  Aモードから任意のシャッタースピードに変更するときに使います。
- **ISO感度設定ダイヤル**
  フィルム感度の設定に使います。
- **DXロック解除ボタン**
  フィルム感度自動設定“DX”モードから任意のフィルム感度の設定をするときに使います。
- **露出補正ダイヤル**
  露出補正をするときに使います。
- **レンズロック解除ボタン**
  レンズを外すときに使います。
- **標準/フルパノラマ切り替えつまみ**
  撮影シーンに応じて、標準サイズ、フルパノラマサイズの撮影画面の切り替えに使います。連動して、ファインダー視野枠も切り替わります。
- **AEBボタン**
  自動的に露出を変えながらの、3コマ撮影の設定に使います。
- **液晶ライトボタン**
  暗いところでの液晶表示確認に使います。
  裏ぶた側のメイン液晶表示部および上面フィルムカウンターが同時に点灯します。
- **フィルム途中巻き戻しボタン**
  フィルムを途中で取り出すときに使います。
- **フィルム在否確認窓**
  フィルムが装てんされているか、また装てんしたフィルムの種類の確認に使います。

特　長

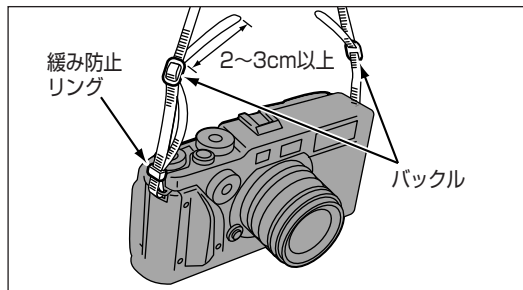
●レンズ交換式・距離計連動デュアルフォーマット（標準/フルパノラマ）カメラ

1. 標準（24×36mm）/フルパノラマ（24×65mm）の切り替えを装備し、撮影シーンに合わせ幅広い創作ができます。
2. 新設計によるスーパーEBC FUJINONレンズ（交換式）により、クリアでシャープな高画質を実現します。
3. 高精度な二重像合致式距離計で、スーパーEBC FUJINONレンズをバックアップし、高性能を余すところなく引き出します。
4. レンズ交換に連動してファインダー倍率を変更するファインダー光学系を採用し、フレーミングが容易にできます。
5. 絞り優先AE、マニュアル露出、多様な光線状況にも対応可能な露出補正、露出を変えながら3コマの撮影ができるAEB（Auto Exposure Bracketing）などの多彩な露出技法が駆使できます。
6. ELバックライト方式の液晶照明で、暗い場所での液晶表示確認が容易にできます。

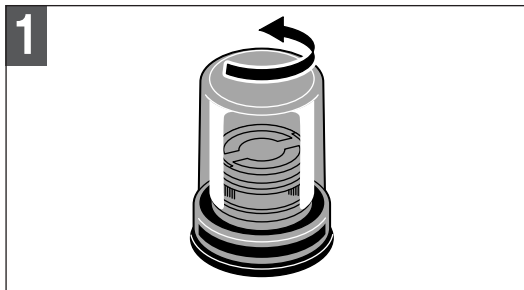
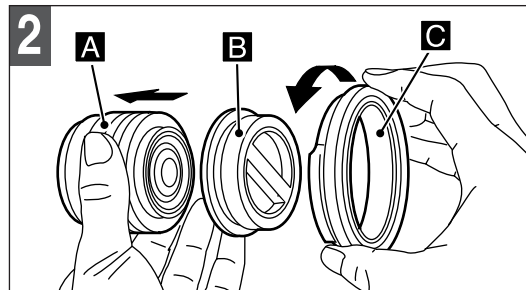
フィルムの現像

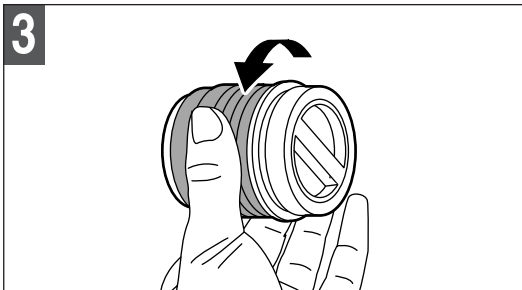
フィルムの現像をご依頼になるときは、下記のことにご注意ください。

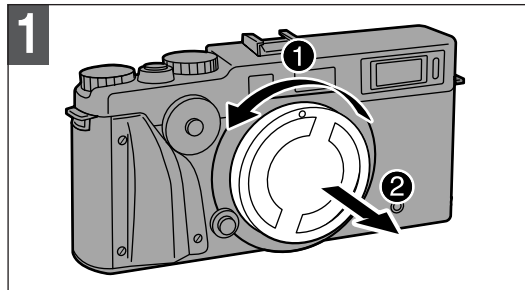
- フルパノラマ撮影を含むフィルムの現像は、必ず「長巻き仕上げ」とご指定ください。ご指定のない場合、画面を切断することがあります。
  ＊撮影の途中で、標準サイズ（24×36mm）/フルパノラマサイズ（24×65mm）の切り替えができます。
- フルパノラマで撮影したコマのあるフィルムを現像・プリントする場合は、通常の料金・日数と異なることがあります。詳しくはお店でおたずねください。
- 必ず付属の指定シールをはって、現像にお出しください。

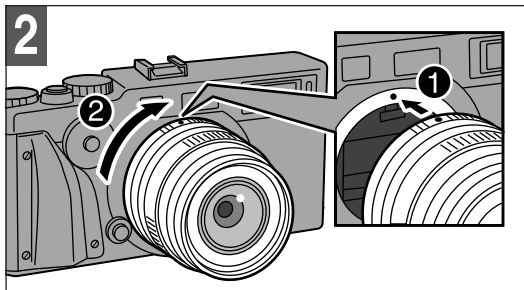
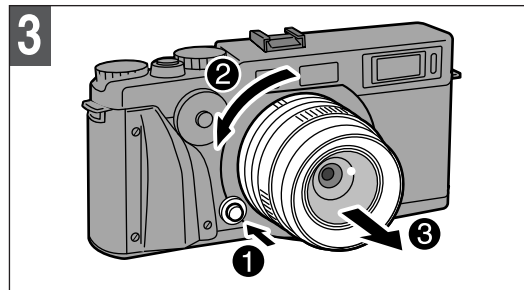
ストラップを取り付けます

ストラップ取り付け部にストラップの先端を通し、緩み防止リング、バックルの順に通して取り付けます。

＊ストラップは使いやすい長さに調節します。このときに、ストラップの先端がバックルから2〜3cm以上は出るようにしてください。
＊ストラップの先端を緩み防止リングに通すときは、ストラップの先端を固定して緩み防止リングの方を動かすと、比較的容易に通せます。

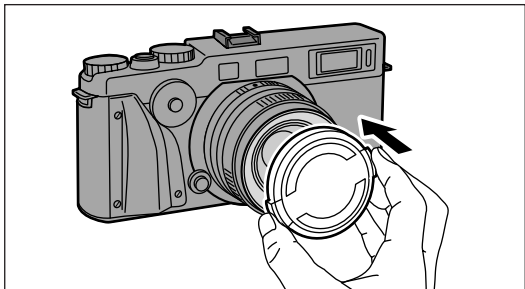
レンズ収納ケースからレンズを取り出します

レンズ収納ケース上部（カバー部）を矢印方向へ回し、収納ケース上部を外します。

レンズ **A** をしっかりと持ち、収納ケース下部 **C** を矢印方向へ回 してレンズ **A** を取り外します。このときに一度手ごたえがあり、そこからさらに矢印方向へ回すと、レンズ **A**･レンズリアキャップ **B**･収納ケース下部 **C**、それぞれがすべて外れます。

＊レンズ･レンズリアキャップ･収納ケース下部を、すべて外す場合は、レンズリアキャップを落とさないように注意してください。

レンズを携帯する場合には、レンズリアキャップをレンズに取り付けて、持ち運ぶことができます。

＊レンズを保管する場合には、収納ケースに入れて保管してください。
＊レンズ単体で放置する場合には、キズや汚れからレンズ部を保護するため、レンズキャップとレンズリアキャップを必ず取り付けてください。

ボディキャップを矢印方向へ回し、カメラから取り外します。

＊レンズを取り付けていないときは、光カブリや、ごみ・ほこりなどの付着防止のため、必ずボディキャップを取り付けてください。

レンズを取り付ける場合は、レンズをしっかりと持ち、❶レンズ側の赤指標をカメラ側の赤指標に合わせてはめ込み、❷「カチッ」と音がするまで矢印方向へ回して取り付けます。

レンズを取り外す場合は、レンズをしっかりと持ち、❶レンズロック解除ボタンを押しながら、❷矢印方向へ止まるまで回し、❸レンズを前方に取り外します。

＊レンズを外したままカメラを放置しないでください。レンズを外したときは、必ずカメラにボディキャップを取り付けてください。

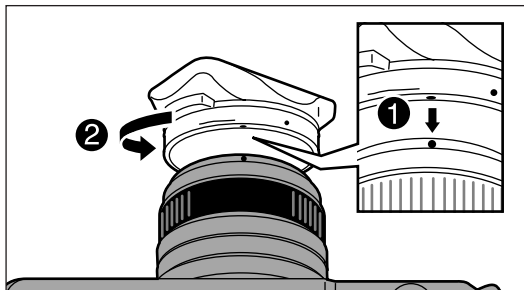
レンズキャップの着脱

レンズキャップ2カ所の突起をつまみ、カメラレンズ先端のねじ部に取り付け、取り外しをします。
レンズへのごみ、ほこりなどの付着防止のため、撮影しないときは必ずレンズキャップを取り付けてください。

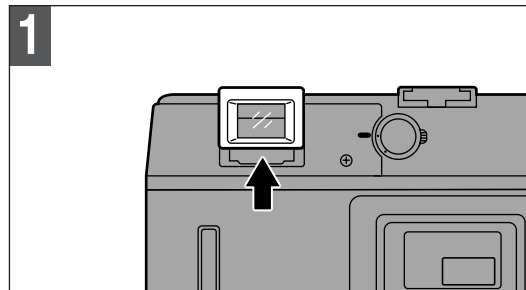
＊撮影するときは、レンズキャップを外してあることを確認してください。レンズキャップが付いていると、ファインダー内の露出表示“ ▬ ”およびメイン液晶表示部のシャッタースピード表示が点滅して警告します。
＊レンズが汚れているときは48ページを参照して、レンズをきれいにふいてください。

<レンズフィルターについて>

M49の市販フィルターをご使用ください。

● フィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。画面ケラレの原因になります。
● TTLダイレクト測光（レンズを通った光を測光）のため、PLフィルターなどの露出倍数があるフィルターを使用したときでも、露出補正は不要です。

レンズフードの取り付け

別売のレンズフードTXが必要です。
❶レンズフード端面の赤指標とレンズ先端の赤指標を合わせ、❷矢印方向に止まるまで回して取り付けます。

＊専用のレンズフードTX（別売）以外は使用できません。
＊レンズフードは、バヨネット式になっています。
＊正しく取り付けないと、光線ケラレの原因になります。
＊フードを使用するとファインダー右下側がケラレますが、写真には影響ありません。

ファインダーアイピースの着脱

付属のファインダーアイピースは、－1.0ディオプターです。ファインダー像がはっきりと見えない場合は、別売の視度補正レンズTXをご使用ください。
5種類（＋2D・＋0.5D・－2D・－3D・－4D）で、近視の方には－側視度補正レンズ、遠視の方には＋側視度補正レンズが適しています。
視度補正レンズ枠の下部にある切り欠き部から、視度補正レンズ枠を矢印方向にスライドさせて取り外します。

＊カメラ本体側のファインダーレンズを汚さないように注意して、交換してください。

電池を入れます

モードスイッチが“OFF”になっていることを確認し、電池ぶたをコインなどで矢印方向へ回して取り外します。

■使用するリチウム電池
　富士フイルム　エバレディCR2　2本

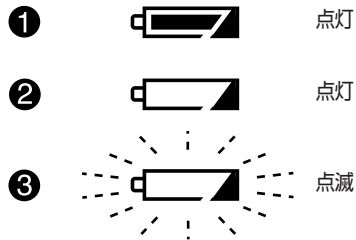
視度補正レンズ取り付けガイドに合わせ、「カチッ」と音がするまで矢印方向にスライドさせて取り付けます。

モード切り替えレバーで電源のON/OFFと、各モードを切り替えます。“OFF”以外に合わせると電源が入り、メイン液晶表示部に電池容量とISO（フィルム感度）が表示されます。

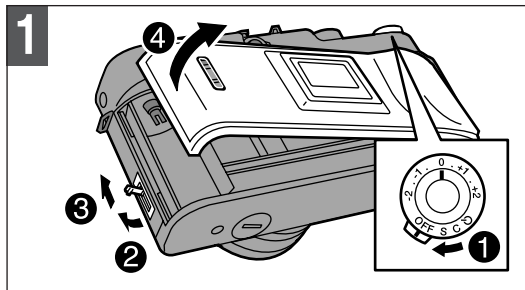
❶表示に従って電池をプラス側から入れ、❷電池ぶたをコインなどを使用して、押し付けながら矢印方向に回して取り付けます。

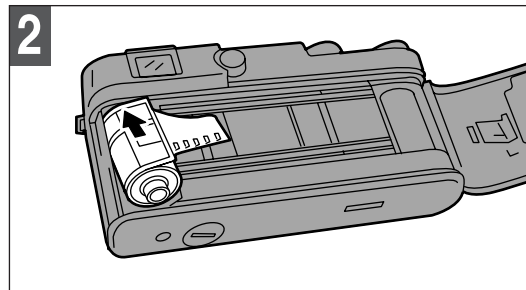
＊電池を誤装てんした場合は、作動しません。
＊電池交換時は、必ず2本とも新しい電池をご使用ください。新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。

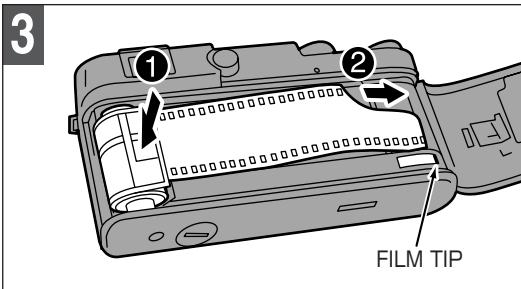
⑴ OFF：電源が切れます。
⑵ S　：1コマ撮影
シャッターボタンを押すごとに1コマ撮影され、次のコマに巻き上げられます。
⑶ C　：連続撮影
シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます（撮影コマ速度は、シャッタースピードにより変化します）。
⑷ ◷　：セルフタイマー撮影
セルフタイマー撮影をするときにセットします。

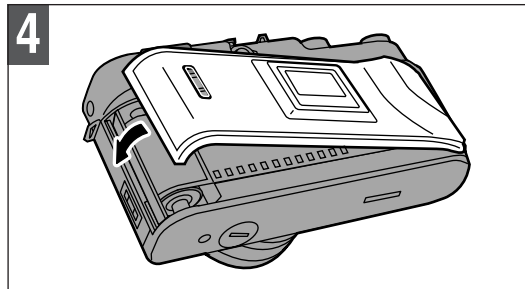
＊電源を入れたまま約3分間放置すると、電源は自動的に切れます。自動的に電源が切れたときは、シャッターボタンを半押しすると電源が入ります。

電池容量表示を確認します。
❶電池の容量はOKです。
❷電池の容量が不足しています。新しい電池を準備してください。
❸電池の容量がなくなったため、シャッターは切れません。新しい電池と交換してください。

＊2本の新品電池で約3,000ショットの撮影ができます（当社試験条件による）。

フィルムを入れます

フィルム在否確認窓からフィルムが装てんされていないことを確認します。❶電源を“OFF”にし、❷裏ぶた開放つまみを起こして❸矢印方向にスライドさせ、❹裏ぶたを開きます。

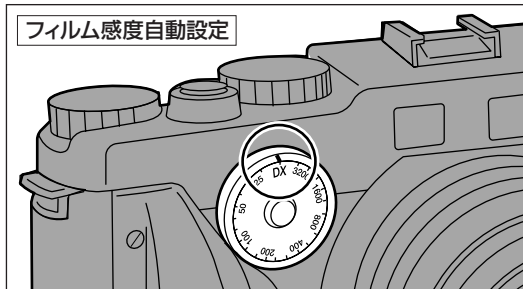
＊使用するフィルムは、35mmフィルム（135パトローネ入り）です。
＊フィルムセット中の誤動作を防ぐため、必ず電源を“OFF”にしてください。
＊シャッター幕は指で触れたり、フィルムの先端でついたり、絶対にしないでください。

図のようにフィルムパトローネを斜めにして、フィルムを押し込むように入れます。

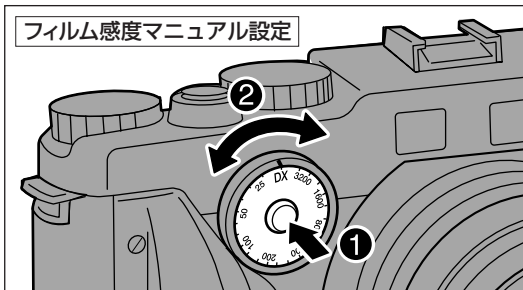
＊ISO感度設定ダイヤルがDXに掛かっているとき、DXコードのないフィルムをセットするとカメラが動作しません。あらかじめ、手動でフィルム感度を設定してからフィルムを装てんしてください。

フィルムパトローネを押さえながらフィルムの先端をFILM TIPマーク（緑のライン）まで引き出し、フィルムが浮き上がらないように、フィルムパトローネの角度を調節します。

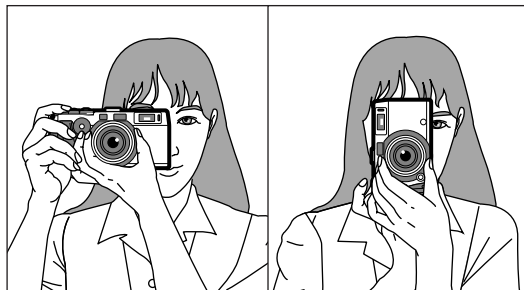
＊フィルムを長く引き出し過ぎたときは、フィルムパトローネを一度取り出して、長さを調節してください。
＊フィルムを長く引き出し過ぎると、撮影最終コマが光りカブリを起こしますので、必要以上に長く引き出さないでください。

裏ぶたを確実に閉めます。裏ぶたを閉めると自動的にフィルムがすべて巻き上げられます（プレワインド）。プレワインド途中はメイン液晶表示部にフィルム感度を表示し、フィルムカウンターがカウントアップします。プレワインド終了後、メイン液晶部とフィルムカウンターは消灯します。電源を入れると、フィルムカウンターに撮影可能枚数が表示されます。

撮影可能枚数表

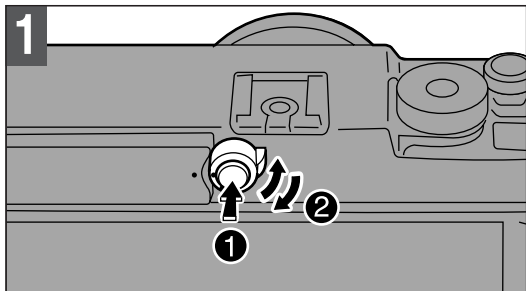
	36EXP	24EXP	12EXP
標　　準	36枚	24枚	12枚
フルパノラマ	20枚	13枚	6枚

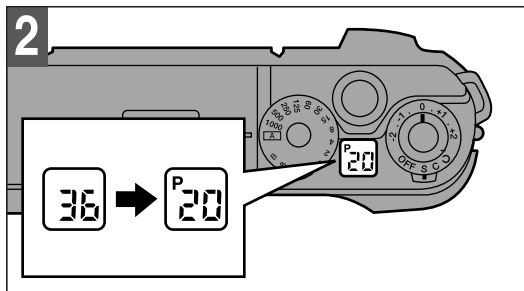
＊フィルムによっては、撮影可能枚数が変わることがあります。
＊フィルムカウンター表示は撮影タイプがフルパノラマの場合、“P”の表示と撮影可能枚数が表示されます。
＊電源をONにしてもフィルムカウンターに枚数表示がされない場合は、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開け、もう一度フィルムを入れ直してください。
＊フィルムカウンターが点滅表示される場合は、フィルム給送途中で異常があったことを示します。フィルムを巻き戻し、取り出してください。
＊正常にフィルムがセットされた場合、未撮影フィルムの感光を防ぐため、裏ぶたを不用意に開けないでください。
＊フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。

ISO感度設定ダイヤルを、“DX”に合わせます。“DXコード”によってフィルム感度が自動設定されます。

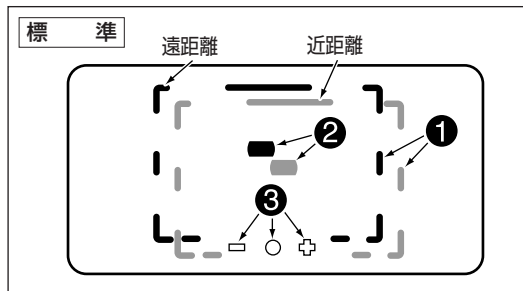
＊DXコードのないフィルムをセットするとカメラが動作しません。その場合は、一度裏ぶたを開け、手動でフィルム感度を設定してから、再度フィルムを装てんしてください。
＊ISO感度設定ダイヤルは“DX”の場所でロックが掛かります。

フィルム感度をマニュアルで設定するには、❶DXロック解除ボタンを押しながら、❷ISO感度設定ダイヤルを回して任意の感度に設定します。

＊ISO感度設定ダイヤルは“DX”以外の場所ではロックが掛かりませんので、ご注意ください。

手ブレを起こさないように脇を締めるようにしっかり構え、シャッターを静かに切ります。

＊採光窓や距離計窓に、ストラップなどが掛らないように注意してください。ファインダー内の表示が見にくくなります。

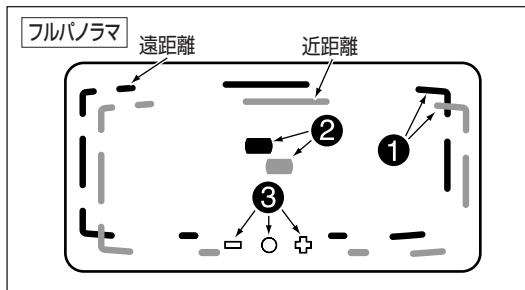
撮影画面サイズ（標準/フルパノラマ）の切り替え

❶標準/フルパノラマ切り替えロック解除ボタンを押しながら、❷標準/フルパノラマ切り替えつまみを矢印の方向に回すと、標準撮影画面とフルパノラマ撮影画面を切り替えられます。
標準/フルパノラマを切り替えると、フィルム位置を調整する音がしますが、異常ではありません。
標準/フルパノラマ切り替えつまみを時計方向に回すとフルパノラマになり、つまみ上部に“P”のマークが現れます。反時計方向に回すと標準となります。

＊標準/フルパノラマ切り替えつまみが中間で止まっている場合は、シャッターロックが掛かり撮影できません。この場合は、フィルムカウンターに“P”が点滅して警告します。
＊画面を切り替えても短辺画角は変わりません。

フルパノラマ撮影にすると、フィルムカウンターに“P”とフルパノラマでの撮影可能枚数が表示されます。また、ファインダーの視野枠もフルパノラマの視野枠に切り替わります。

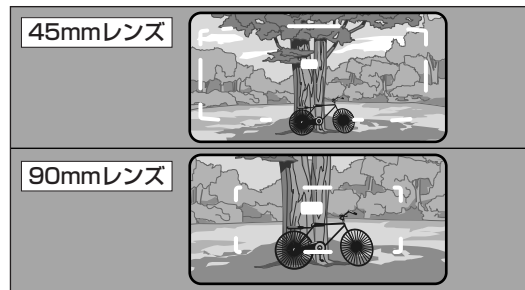
＊標準画面タイプが選択された状態で、残りフィルム枚数が１コマの場合には、フルパノラマ画面タイプに切り替えるとフィルム残量が足りないため、シャッターロックが掛かり撮影できません。この場合は、フィルムカウンターに“P”が点滅して警告します。

標準/フルパノラマ切り替えつまみで撮影画面サイズを切り替えると、視野枠（標準/フルパノラマ）が切り替わります。

❶視野枠…視野枠内に見える範囲が写し込まれます。

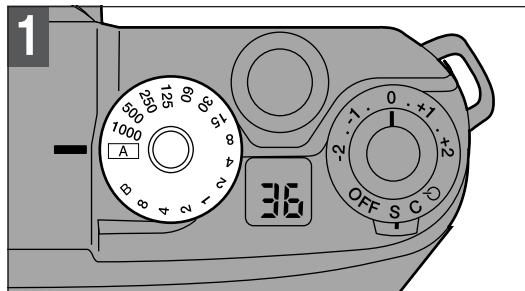
❷二重像合致部分…ピント合わせに使用します。

ファインダー内の視野枠・二重像合致部分ともに、遠距離の場合■の位置になります。近距離の場合■の位置まで移動し、パララックスを自動的に補正します。

❸露出表示

▬ 点滅	露出連動範囲外
▬	アンダー
●	適正
✚	オーバー
✚ 点滅	露出連動範囲外

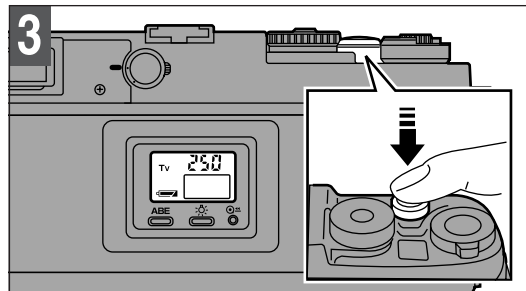
	画面サイズ	焦　点　距　離	
標準サイズ	24×36mm	45mm	90mm
フルパノラマ	24×65mm	長辺25mm相当	長辺50mm相当

レンズを交換すると、連動してファインダー内倍率が変わります。

絞り優先AE

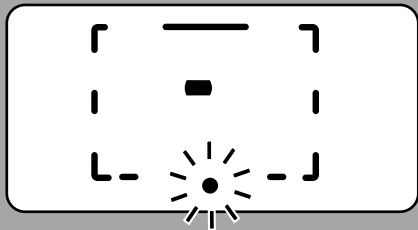
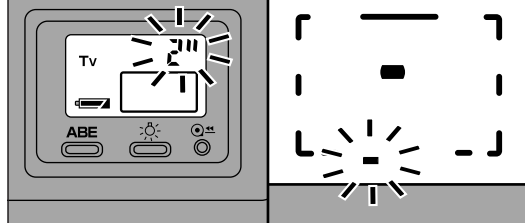
絞り優先AEでの撮影は、被写界深度を利用した撮影に使用します。ポートレート撮影で背景をぼかし被写体だけにピントを合わせたいときや、遠景撮影、近接撮影のような広い範囲にピントを合わせたいときなどに使用します。シャッタースピードはカメラが自動で設定します。

シャッタースピードダイヤルの“A”を指標に合わせます。

＊シャッタースピードダイヤルは“A”の場所でロックが掛かります。

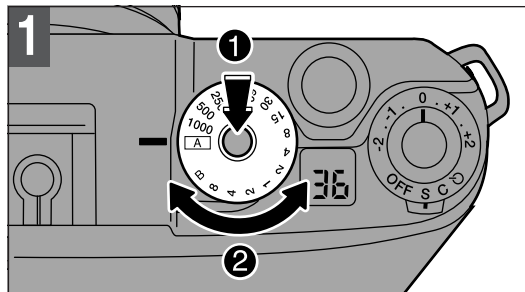
絞りリングを回して絞りを設定します。

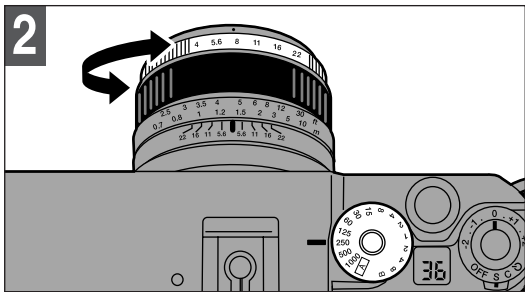
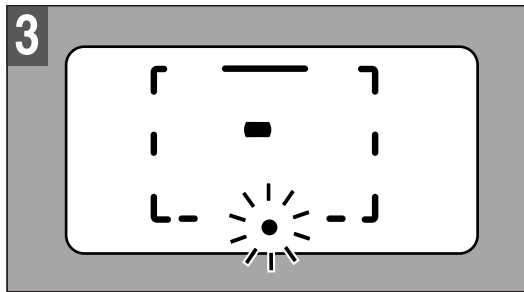
＊暗い場所で撮影するときは、絞りの設定によってはスローシャッターになりますので、手ブレ防止のため三脚などを使用してください。

シャッターボタンを半押しすると測光を開始し、シャッタースピードが自動的に決まり、メイン液晶表示部には選択された適正シャッタースピード値が表示されます。また、半押しのまま保持するとAEロックになります。

●絞り優先AEの場合は、シャッタースピードの表示は1/2ステップきざみの表示となります。

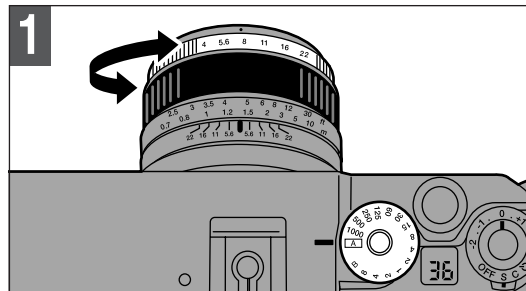
＊半押しを解除しても約10秒間は測光を続けます。その間ファインダー内の露出表示と、メイン液晶表示部のTv値表示は表示を続けます。

ファインダー内に、適正“●”マークが表示されれば、適正露出です。

ファインダー内に露出アンダー“▬”・露出オーバー“✚”が点滅表示、およびメイン液晶表示部のシャッタースピード（Tv値）が点滅表示されるときは、シャッタースピードが連動範囲外です。
“▬”点滅のときは、絞りを開放側に、“✚”点滅のときは絞り込んでください。

マニュアル露出

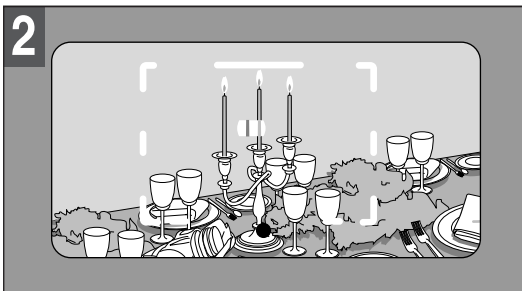
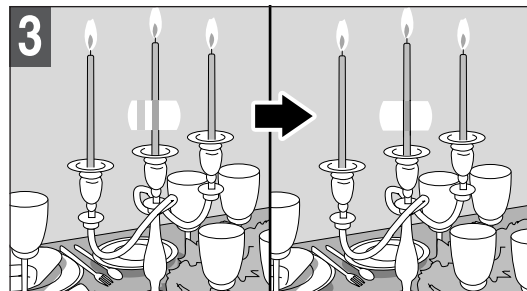
マニュアル露出での撮影は、ハイキー/ローキーなど撮影者が意図的な露出表現をする場合、逆光などの“絞り優先AE”では不適切な被写体の場合などに使用してください。

シャッタースピードダイヤルで、任意のシャッタースピードを設定します。❶ロック解除ボタンを押しながら、❷シャッターダイヤルを回して、任意のシャッタースピードを設定します。

＊シャッタースピードダイヤルは “A” 以外の場所ではロックが掛かりませんのでご注意ください。
＊シャッタースピードダイヤルは、クリックのあるところにセットしてください。中間にセットすると、露出不良の原因になります。

絞りリングを回して、絞りを設定します。

シャッターボタンを半押しすると測光を開始し、ファインダー内に露出マークが表示します。絞りとシャッタースピードを調節してください。

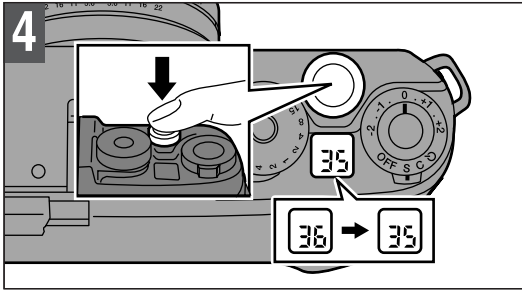
■露出表示

表示	内容
▬ 点滅	露出連動範囲外
▬	1ステップ以上アンダー
▬　●	0.5ステップアンダー
●	適正露出
●　✚	0.5ステップオーバー
✚	1ステップ以上オーバー
✚ 点滅	露出連動範囲外

“絞り優先AE”または、“マニュアル露出”で被写体に露出を合わせます。

＊ファインダー内に露出アンダー“▬”・露出オーバー“✚”が点滅表示、およびメイン液晶表示部のシャッタースピード（Tv値）が点滅表示するときは、露出連動範囲外です。このときはレンズ絞り、シャッタースピードを調節してください。

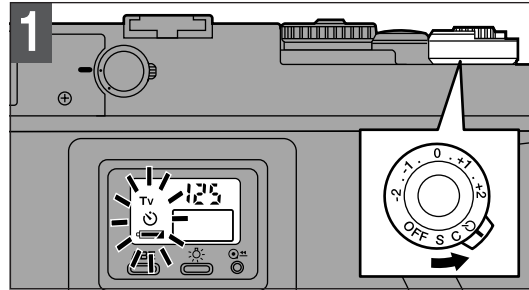
＊レンズキャップを外してあることを確認してください。レンズキャップを付けたままでは、ファインダー内の露出表示“▬”および、メイン液晶表示部のシャッタースピード表示が点滅します。

ファインダーをのぞき、被写体を視野枠内にとらえます。距離調節リングを回してフォーカスフレーム内の二重像が合致するようにします。

二重像が合致したらピント合わせは完了です。

＊ファインダーアイピースを斜めからのぞくと二重像合致部分がずれて見え、測距不良の原因となります。
アイピースの真正面からのぞいてください。

4

シャッターボタンを静かに押し切ります。シャッターが切れると、撮影タイプに合わせてフィルムが送られ、フィルムカウンターが減算表示されます。

＊撮影するごとにフィルムはパトローネ内に巻き込まれます。

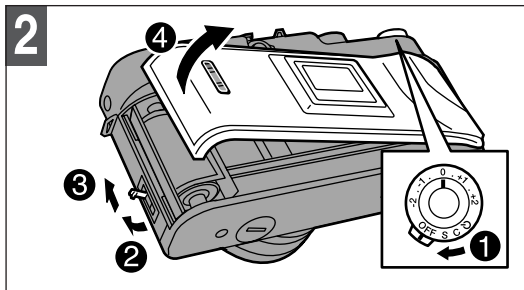
セルフタイマー撮影

1

モード切り替えレバーを、“⏲”に合わせます。メイン液晶表示部に“⏲”が表示されます。シャッタースピード・絞りを設定し、被写体にピントを合わせます。

＊三脚などを使用して撮影してください。
＊スタートしたセルフタイマーは、モード切り替えレバーを“⏲”の位置から動かすと解除されます。

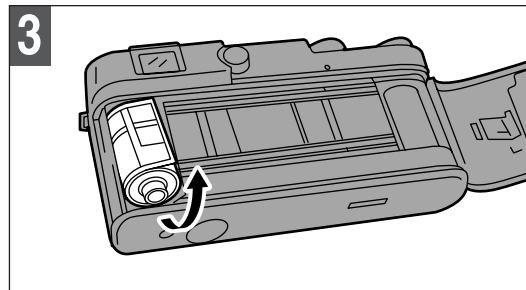
フィルムを取り出します

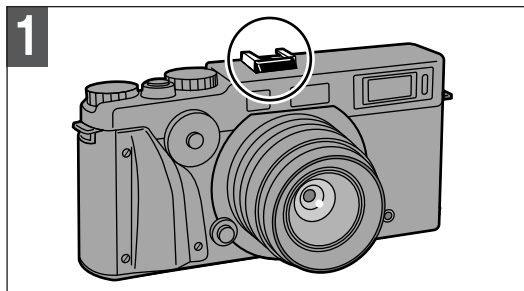
最後の1コマの撮影が終わると、フィルムがすべてパトローネに巻き込まれ、フィルムカウンターに“E”を表示し、モーターが停止します。

＊撮影済みフィルムの感光を防ぐため、裏ぶたを開ける前に、必ずフィルムカウンターに“E”が表示されていることを確認してください。

シャッターを切ると、約7秒間セルフタイマーランプが点灯した後、点滅に変り約3秒後にシャッターが切れます。

＊絞り優先AE撮影のときは、カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。露出不良の原因になります。

フィルムカウンターに“E”が表示され、モーターの回転が止まってから、❶電源を“OFF”にし、❷裏ぶた開放つまみを起こして❸矢印方向にスライドさせ、❹裏ぶたを開きます。

フィルムパトローネを取り出します。

途中でフィルムを取り出す場合には、フィルム途中巻き戻しボタンを押して、フィルムを巻き戻します。フィルムカウンターに“E”が表示され、モーターの回転が止まってからフィルムパトローネを取り出します。

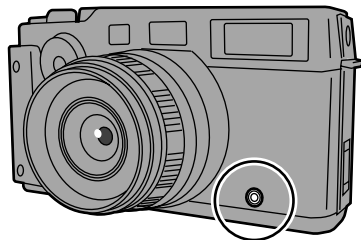
ストロボ撮影

クリップオンタイプの小型ストロボをご使用になる場合は、カメラ上部のホットシューをご利用ください。

＊信号ピン付きの他社カメラの専用ストロボは、着脱不能になる場合がありますので、使用しないでください。

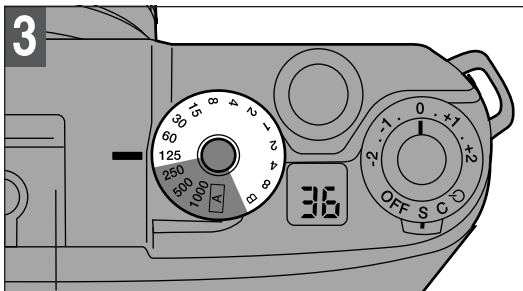
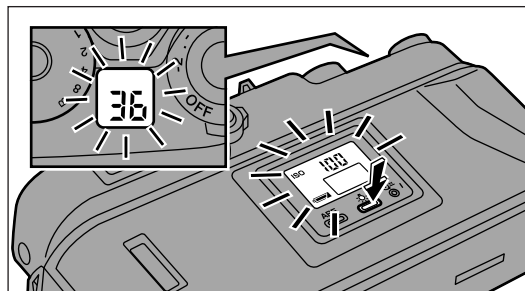
■ フルパノラマ時のストロボは、下表をカバーする画角の広いストロボをご使用ください。

フルパノラマ時	長辺画角	35mm判相当
f＝45mm	71.0°	f＝25mm
f＝90mm	39.5°	f＝50mm

● オートストロボを使う場合は、ストロボの使用説明書に従って使用してください。
● マニュアルストロボ使用時の絞り設定は

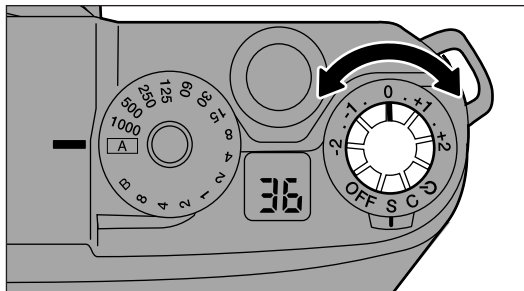
$$\text{絞り値 (FNo.)} = \frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{撮影距離}}$$ で算出します。

コード式のストロボは、カメラ前面のシンクロソケットにコードを差し込みます。

＊シンクロソケットキャップを取り外してから、使用してください。

液晶表示部バックライト

シンクロ接点はX接点になっています。ストロボをご使用になる場合は、シャッタースピードを1/125以下にセットしてください。

“☀”ボタンを押すと、約5秒間メイン液晶表示部とフィルムカウンターのバックライトが点灯します。もう一度押すとすぐに消灯します。

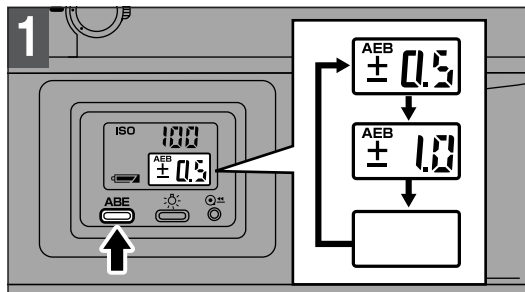
＊1/125秒より速いシャッタースピードにすると、ストロボとシャッターが同調しません。

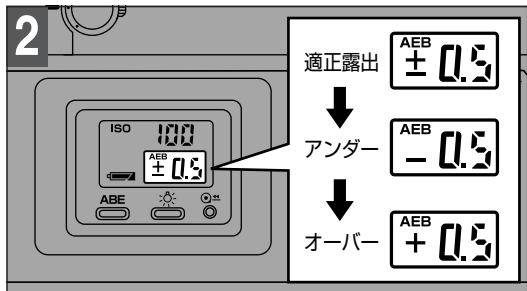
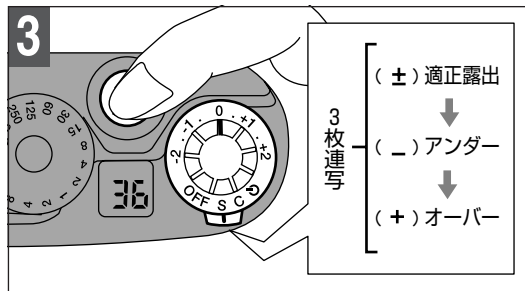
露出補正

逆光の撮影で被写体が暗く写ってしまう場合や、被写体にスポット光が当たっていて、被写体の露出がオーバーに写ってしまう場合。このようなときに露出補正を使用すると、適正な写真を写すことができます。また、意図的に露出オーバー、アンダーの写真をとりたいときにも使用します。

露出補正ダイヤルを回して設定します。露出オーバーにする場合は“＋”側、アンダーにする場合は“−”側に合わせます。設定範囲は＋2〜−2までの間で0.5ステップ刻みです。
“絞り優先AE”“マニュアル露出”どちらの場合でも、露出補正の設定をした値を基準に露出表示します。

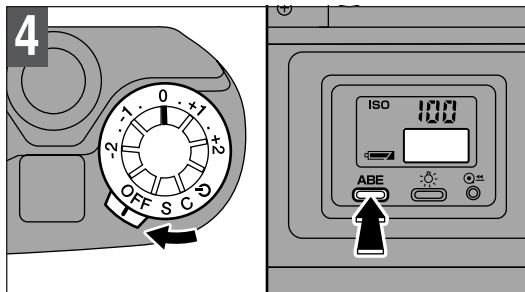
＊“絞り優先AE”での補正は、シャッタースピードを制御して行います。
＊通常撮影時は、設定値を必ず“0”に合わせてください。

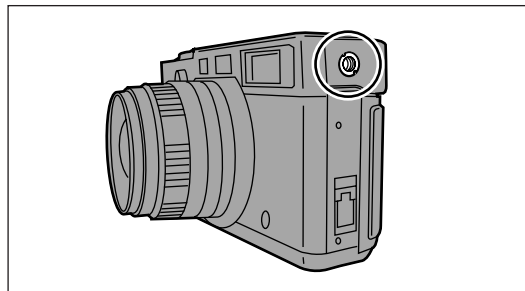
AEB撮影

AEB（Auto Exposure Bracketing）撮影は、適正露出（露出補正がされている場合には、補正値）を基準に適正、アンダー、オーバーの計3枚の写真を撮影できます。リバーサルフィルムを使用した撮影や、微妙な色合いを表現したいときに使用すると効果的です。

“AEB”ボタンを押すごとに、図のように（±0.5→±1.0→消灯の順番）メイン液晶表示部に表示され、最後に表示したAEB補正値が選択されます。

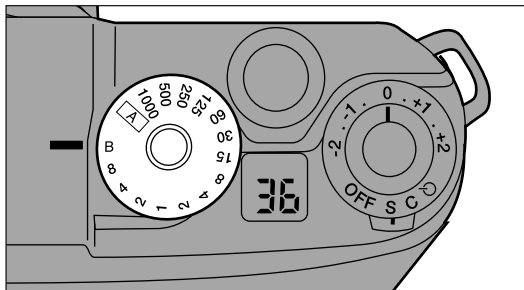
＊撮影可能枚数が2枚以下の場合、およびシャッタースピードが1/1000秒または8秒を超える場合は、“AEB表示”が点滅し、撮影することができません。

シャッターを切ると、適正露出/アンダー/オーバーの順に撮影され、メイン液晶表示部には、±/−/+の順番で表示されます。

シャッターを押し続けると、適正露出/アンダー/オーバーの順に3枚連続撮影し、給送が止まります。途中でシャッターを離した場合でも、もう一度シャッターを押すと続きから撮影が開始され、3枚目を撮影して給送が止まります。

＊AEBの途中で画面サイズを切り替えると、フィルムカウンターの “P” が点滅し、撮影することができません。

＊AEB撮影のときは、Sモードでもシャッターボタンを押し続けると、3枚連続撮影になります。

AEB撮影を解除する場合は、電源を“OFF”にするか、AEBボタンを押して表示を消すと解除できます。

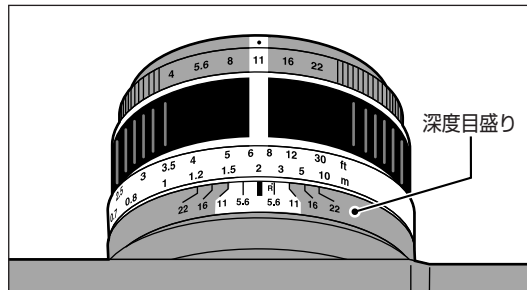
ケーブルレリーズ

市販のケーブルレリーズをレリーズソケットにねじ込みます。

＊ケーブルレリーズを使用する場合は、シャッター半押しの状態のAE測光ができません。あらかじめシャッターボタンを半押しし、露出の確認をしてからケーブルレリーズを作動させてください。

バルブ撮影

シャッタースピードダイヤルを “B” に設定します。シャッターボタンを押している間、シャッターが開きます。30秒を超えるバルブ撮影はできません。
シャッター破損防止のため、約30秒で自動的にシャッターが閉じます。

＊バルブ撮影の場合は、カメラブレなどが発生しやすいので、しっかりと三脚などに固定し、ケーブルレリーズを使用してください。

被写界深度の利用

被写体にピントを合わせたとき、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度と言います。この被写界深度を利用し、背景をぼかし、被写体を浮き出したり、被写体と背景を鮮明に写すことができます。

〈被写界深度目盛りの見方〉
f45mmのレンズで2mに合わせると、f11に絞って約1.5m〜3mのものはだいたい鮮明に写ります。

〈被写界深度の性質〉

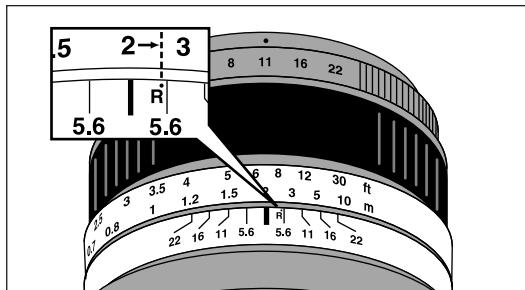
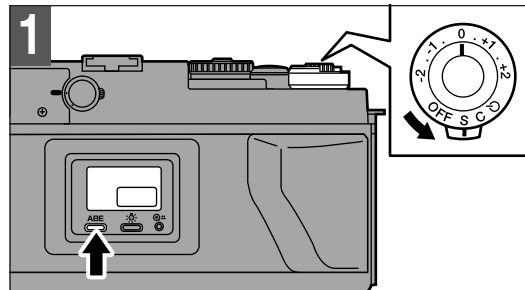
①絞りが開放になるにともない被写界深度は浅くなり、絞り込むほど被写界深度は深くなります。
②撮影距離が遠くなるほど被写界深度は深く、近いほど浅くなります。
③ピントを合わせた被写体の前方深度(近い側)は後方深度(遠い側)より浅くなります。
④同じ絞りでは、焦点距離の短いレンズほど被写界深度は深く、焦点距離が長いレンズほど被写界深度は浅くなります。

- 深度目盛りは、目測撮影、置ピン撮影に利用すると便利です。

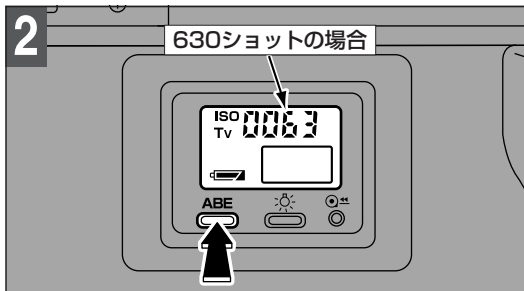
〈被写界深度表〉

(m)

		0.7m	0.8m	1.0m	1.2m	1.5m	2.0m	3.0m	5.0m	10m	∞
f45mm 1:4	F4	0.67〜0.73	0.77〜0.84	0.95〜1.06	1.12〜1.29	1.38〜1.65	1.78〜2.28	2.53〜3.70	3.79〜7.35	6.09〜28.3	15.3〜∞
	F5.6	0.66〜0.74	0.75〜0.85	0.92〜1.09	1.09〜1.33	1.33〜1.72	1.70〜2.42	2.37〜4.10	3.45〜9.14	5.24〜11.9	10.9〜∞
	F8	0.65〜0.76	0.73〜0.88	0.90〜1.13	1.05〜1.40	1.27〜1.83	1.61〜2.66	2.18〜4.83	3.06〜13.9	4.39〜∞	7.71〜∞
	F11	0.63〜0.79	0.71〜0.92	0.86〜1.20	1.00〜1.51	1.20〜2.02	1.49〜3.09	1.96〜6.50	2.64〜56.0	3.57〜∞	5.47〜∞
	F16	0.61〜0.83	0.68〜0.98	0.81〜1.31	0.94〜1.69	1.11〜2.37	1.35〜4.00	1.72〜12.7	2.22〜∞	2.82〜∞	3.89〜∞
	F22	0.58〜0.90	0.64〜1.08	0.76〜1.50	0.86〜2.03	1.00〜3.14	1.19〜6.92	1.47〜∞	1.81〜∞	2.19〜∞	2.76〜∞
f90mm 1:4	F4			0.99〜1.01	1.18〜1.22	1.47〜1.53	1.94〜2.06	2.87〜3.15	4.63〜5.43	8.61〜11.9	59.8〜∞
	F5.6			0.98〜1.02	1.17〜1.23	1.45〜1.55	1.92〜2.09	2.81〜3.21	4.49〜5.64	8.14〜12.9	42.5〜∞
	F8			0.97〜1.03	1.16〜1.24	1.44〜1.57	1.89〜2.13	2.74〜3.31	4.31〜5.95	7.56〜14.8	30.2〜∞
	F11			0.96〜1.04	1.14〜1.26	1.41〜1.60	1.84〜2.19	2.65〜3.46	4.08〜6.47	6.87〜18.5	21.5〜∞
	F16			0.95〜1.06	1.12〜1.29	1.38〜1.65	1.78〜2.28	2.53〜3.70	3.80〜7.37	6.09〜28.8	15.3〜∞
	F22			0.93〜1.09	1.09〜1.33	1.33〜1.72	1.71〜2.42	2.38〜4.10	3.46〜9.20	5.25〜136	10.8〜∞

赤外撮影表示

赤外撮影では可視光と赤外光でピント位置が異なるので、ピントのズレを補正する必要があります。ピントの合った距離を、指標のとなりにある赤マーク“R”(赤外線補正マーク）にずらしてください。

＊赤外撮影は、赤外線フィルムとフィルターを使用します。
＊詳しくは、赤外線フィルムの使用説明書に従ってください。

トータルショット数表示

AEBボタンを押しながら電源を入れます。

AEBボタンを押している間、トータルショット数を表示します。AEBボタンを離すと、通常撮影モードに切り替わります。

- 1カウントは10ショットです。オーバーホールや定期点検の目安にご利用ください。
- 出荷検査のため新品でも200コマ程度のトータルショットが表示されるものがありますが、あらかじめご了承ください。

取扱上のご注意

カメラは精密機械です。取り扱いにはつぎのようなことに十分ご注意ください。

1．カメラの清掃

●汚れをふき取るのにシンナー、アルコールなどの溶剤は使用しないでください。
●撮影前後に、カメラの清掃を行ってください。ブロアーブラシでほこりを払い、カメラの外側はシリコンクロスなどの柔らかい布でふいてください。
●フィルム室に汚れやほこりがあると、フィルムを傷つけることがあります。特にカメラ内部の清掃は常に心掛けてください。

2．レンズの清掃

●レンズのすり傷は、想像以上にシャープネスの劣化につながります。何となくコントラストが低下し、しまりのない写真になったら、すり傷が原因になっていることが考えられます。

そこで、レンズ清掃は以下のように注意深く行ってください。

① モード切り替えレバーをOFFにしてください。
② レンズ表面のごみは、ほこりをブロアーブラシで吹きとばしてください。
③ クリーニングペーパーに市販のレンズクリーニング液を浸して、軽くレンズの中心から周辺に向かって、回しながらふき取ります。
④ レンズの汚れがとれたら、乾いたクリーニングペーパーでレンズクリーニング液のふきむらを、レンズの中心から周辺に向かって、回しながら軽くふき取ります。

●レンズにごみ、ほこりなどが付いているとき、息を吹きかけてシリコンクロスなどでふくことは絶対さけてください。すり傷発生の原因になります。
●距離計窓、ファインダーについても、レンズ清掃と同じように清掃を行ってください。距離計窓の傷は、正しい距離測定に支障を来すことがあります。同様

にファインダーの汚れ・キズはファインダーの見えに影響を与えることがあります。

3．液晶表示について

●約60°Cの高温では、液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。

●低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることがありますが、これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

4．電池について

●低温下では、電池は性能が低下する性質を持っています。常温に戻れば性能は回復します。低温下での撮影には、新しい電池を使用し、予備の電池をポケットなどに入れて、暖めながら交互に使うなどの方法をとってください。消耗した電池では低温時、カメラが作動しなくなることがあります。

●バッテリーマークの表示が“ ”になりましたら、電池交換が必要となりますので、予備の電池と交換してください。

5．使用温度範囲

●このカメラの使用温度範囲は−10°C〜+40°Cです。

6．保　管

●夏期は、高温の自動車の中や湿気のある場所に長時間、放置しないでください。

●カメラを保管するときは、湿気、ほこり、熱の影響のないところに収納してください。カメラ本体およびレンズには、必ずキャップをしてください。

●ナフタリンなど防虫剤のガスは、カメラにもフィルムにも有害ですから、たんすなどへの収納はさけてください。

7．フィルムの出し入れ

●必ず日陰で行ってください。

アフターサービスについて

お手持ちの製品が故障した場合には、次の要領で修理させていただきます。それ以外の責はご容赦いただきます。修理は、ご購入店または弊社フジサービスステーションに直接お申し出ください。
なお、保証、使い方などご不明の点につきましても、裏面記載のお近くの弊社営業所やフジサービスステーションをご利用ください。

■無料修理

ご購入年月日、販売店名の記入された、ご購入日より1年以内の保証書が添付されている修理品は、保証書に記載されている内容の範囲内で、無料修理をさせていただきます。
※詳しくは、保証書に記載されている製品保証規定をご覧ください。

■有料修理

保証期間を過ぎた修理は、原則として有料となります。
保証期間内であっても、右記のような修理品はすべて有料となります。また運賃諸掛かりは、お客様にご負担願います。

1. 修理ご依頼の際、保証書の提示または添付のないもの。
2. 保証書にご購入年月日、販売店名が記入されていない場合、または字句が書き換えられている場合。
3. フジサービスステーション以外で分解、修理されたもの。
4. 火災、地震、風水害などの天災による損傷、故障。
5. お取扱上の不注意（使用説明書以外の誤操作、落下、衝撃、水掛かり、砂・泥の付着、カメラ内部への水・砂・泥の入り込みなど）、保管上の不備（高温多湿やナフタリン、しょうのうの入った場所での保管）、お手入れの不備（かび発生など）により生じた故障。
6. 上記以外で弊社の責に帰すことのできない原因により生じた故障。
7. 各部点検、精密検査、分解掃除などを特別に依頼されたもの。

■修理不能

浸（冠）水、強度の衝撃、その他で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの、および部品の手当が困難なものなどは修理できない場合もありますので、お近くのフジサービスステーションにお問い合わせください。

■修理部品の保有期間

本機の補修用部品は、10年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。なお、部品保有期間終了後でも修理できる場合もありますので、詳しくはご購入店かお近くのフジサービスステーションにお問い合わせください。

■修理ご依頼に際してのご注意

1. 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添えてください。
2. ご購入店やフジサービスステーションの窓口で、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。故障の状態によっては、事故となったフィルムなどを添えてくださると修理作業の参考になります。
3. 修理箇所のご指定がないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
4. 修理料金が高く見込まれる修理のときは「○○○○円以上は連絡してほしい」と金額をご指定ください。ご指定のないときは、12,000円以内の料金で修理完了する場合は修理をすすめさせていただきます。
5. 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故をさけるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
6. 修理品を郵送される場合は、購入時の外箱に入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。
7. 修理期間は故障内容により多少違いますが、厳重な調整検査を行いますので普通修理品の場合はフジサービスステーションで、お預かりしてから通常7〜10日位をご予定ください。

■海外旅行中の故障

海外旅行中に故障した場合は、海外各地の富士フイルム海外支店または各国の富士フイルム代理店をご利用ください。富士フイルム海外支店、代理店の所在地一覧表はお近くのフジサービスステーションにご請求ください。なお海外での修理はすべて有料となりますのでご了承ください。

主な仕様

形　　　　　式　レンズ交換式　距離計連動カメラ　標準/フルパノラマ切り替え式

画 面 サ イ ズ　標準画面：24×36mm　フルパノラマ画面：24×65mm

使 用 フ ィ ル ム　135フィルム

撮影枚数

	標　　準	フルパノラマ
36EXP	36枚	20枚
24EXP	24枚	13枚
12EXP	12枚	6枚

撮影レンズ（別売）　スーパーEBCフジノン　バヨネット交換式

①1：4　f＝45mm　（6群8枚構成）　撮影距離　0.7〜∞、フィルター径：φ49mm

②1：4　f＝90mm　（7群9枚構成）　撮影距離　1.0〜∞、フィルター径：φ49mm

	標準サイズ（24×36mm）画角		フルパノラマサイズ（24×65mm）画角		
	対角	長辺	対角	長辺	35mm判相当
45mm	51.4°	43.7°	74.4°	71.0°	f＝25mm
90mm	27.0°	22.7°	41.8°	39.5°	f＝50mm

＊フォーカスリング、絞りリング装備　絞り：F4〜F22　0.5ステップ刻みセット

距 離 合 わ せ　レンズフォーカスリングと連動する二重像合致式連動距離計

フ ァ イ ン ダ ー　採光式ブライトフレーム（自然光）ファインダー　パララックス自動補正

視野枠：レンズ交換で45mm、90mm自動切り替え

標準/フルパノラマ切り替えつまみで標準、フルパノラマ切り替え

倍　率：レンズに対応し倍率変化

f＝45mm　0.45倍　　f＝90mm　0.66倍

視野率：85%以上

ファインダー内表示：露出インジケーター（▬　●　✚）のLED照明

シャッター	フォーカルプレーンシャッター シャッタースピード：B、8秒～1/1000秒　シンクロスピード（1/125秒以下）　セルフタイマー（10秒）
露出制御	シャッター幕面ダイレクト測光 連動範囲：Ev4（F4）～Ev19（F22）（ISO 100時）
撮影モード	絞り優先AE、マニュアル
露出補正	±2Ev　1/2ステップ刻み
オートブラケット	0.5Ev、1.0Ev選択 標準→アンダー→オーバー
フィルム感度	DXオートセット、マニュアルセット ISO 25～3200　1/3ステップ刻み
フィルム送り	順装てん、プレワインド式　自動巻き上げ、オートリワインド 給送モード：シングル、コンティニアス
フィルムカウンター	液晶表示部に残数表示（バックライト照明付）　最終コマ巻き取り後“E”表示 標準/フルパノラマ自動切り替え（フルパノラマ時、P表示）
液晶表示	フィルム感度、シャッタースピード、オートブラケット、総ショットカウンター、電池警告マーク、バックライト照明付、オートブラケット設定時残数不足警告　セルフタイマーマーク
電源	リチウム電池 CR2　2本（6V）
その他	ホットシュー、シンクロソケット、ケーブルレリーズソケット、三脚ねじ穴、フィルム在否確認窓
寸法・重量	ボディ単体（W166.0×H82.0×D51.0mm）　720g（電池なし） レンズ45mm（φ60×L40（47）mm）　235g レンズ90mm（φ60×L66（73）mm）　365g
同梱付属品	ストラップ　リチウム電池（2本）

※仕様・性能は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

富士写真フイルム株式会社

●本製品についてのお問い合わせは…

富士フイルムプロフェッショナル写真部	〒106-8620	東京都港区西麻布 2-26-30	TEL（03）3406-2051
富士フイルムプロフェッショナル写真部		東京販売グループ	TEL（03）3406-2094
富士フイルム大阪支社	〒541-0051	大阪市中央区備後町3-5-11	TEL（06） 205-6471
富士フイルム札幌営業所	〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL（011）241-7164
富士フイルム仙台営業所	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL（022）265-2121
富士フイルム名古屋営業所	〒460-0008	名古屋市中区栄2-10-19 名古屋商工会議所ビル	TEL（052）203-5263
富士フイルム広島営業所	〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL（082）256-3311
富士フイルム福岡営業所	〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL（092）281-0231

●修理の受付は…

東京フジサービスステーション	〒105-0022	東京都港区海岸1-9-15 竹芝ビル	TEL（03）3436-1315
東京／富士フォトサロン	〒104-0061	東京都中央区銀座5-1 スキヤ橋センター	TEL（03）3571-9411
大阪フジサービスステーション	〒541-0051	大阪市中央区備後町 3-2-8 大阪長谷ビル	TEL（06） 260-0915
大阪／富士フォトサロン	〒530-0001	大阪市北区梅田1-9-20 大阪マルビル	TEL（06） 346-0222
札幌フジサービスステーション	〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL（011）222-3973
仙台フジサービスステーション	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL（022）265-2149
新潟フジサービスステーション	〒951-8067	新潟市本町通 7 番町 1153 本町通ビル	TEL（025）223-7731
静岡フジサービスステーション	〒420-0859	静岡市栄町1-5 殖産ビル	TEL（054）255-2465
名古屋フジサービスステーション	〒460-0008	名古屋市中区栄1-12-19	TEL（052）202-1851
金沢フジサービスステーション	〒920-0864	金沢市高岡町1-39 住友生命金沢高岡町ビル	TEL（0762）63-3466
高松フジサービスステーション	〒760-0015	高松市紫雲町3-1 香西第2マンション	TEL（0878）34-8355
広島フジサービスステーション	〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL（082）256-3511
福岡フジサービスステーション	〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL（092）281-4863
鹿児島フジサービスステーション	〒892-0838	鹿児島市新屋敷町16 公社ビル	TEL（099）226-2515

※土曜、日曜、祝日、年末年始、夏期休暇は休業させていただきます。

●東京フジサービスステーションは、通常の土曜日（祝日、年末年始、夏期休暇以外）は営業しております。
ただし、受け渡し業務のみとなります。

●大阪／富士フォトサロンは上記休業日のほか、毎月第3水曜日も休業させていただきます。

●富士フイルム製品のお問い合わせは…
お客様コミュニケーションセンター（月曜日～金曜日　午前9：30～午後5：00）TEL（03）3406-2981

この用紙は、再生紙を使用しています。

Printed in Japan

FGS-890106-FG